

かうしゅうやく(衡州烏藥)ノ材ノ組織

滴ヲ含ム大サ平均 18×12μ デアル

うめのきごけノ學名ハ *Parmelia praetervisia* Müll. Arg. トシテ吾國デハ通用シテ居ルガ *Parmelia tinctorum* Despr. ト少シモ異ツタ所ガナイノデ前者ハ異名トシテ置ク程度ノモノデアロウ、うめのきごけニヨク似テコロト混同サレ易キモノニなみがたうめのきごけ(新稱)ナルモノガアル、コノ地衣ハ歐洲ニ産スル *Parmelia olivaria* (Ach.) Hue. (*P. olivetorum* Nyl.) ニヨク似テ居ルガ表面ニ白點ガナイノデ區別サル又うめのきごけトハ表面ニ針芽ヲ全ク缺如シテ居リ波狀ニ屈曲セル邊緣ニ粉芽ヲ有スルノデ區別サル「アルカリ」液並ニ漂白粉溶液ニ對スル反應ハうめのきごけト全ク同一デ此なみがたうめのきごけノ學名ハ *Parmelia hyporysalia* Wain. var. *cinerascens* Wain. デアル(植物學雜誌第四百十一號歐文欄第四十七頁參照)

○かうしゅうやく(衡州烏藥)ノ材ノ組織

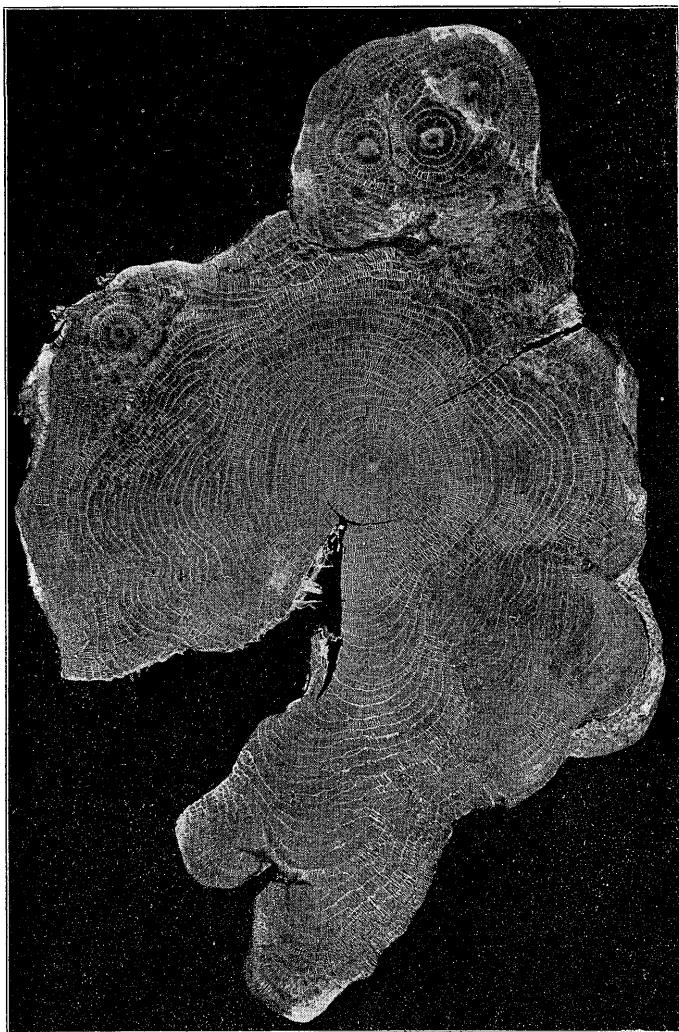
かうしゅうやく(*Cocculus laurifolius* DC.)



藥學士 藤 田 直 市

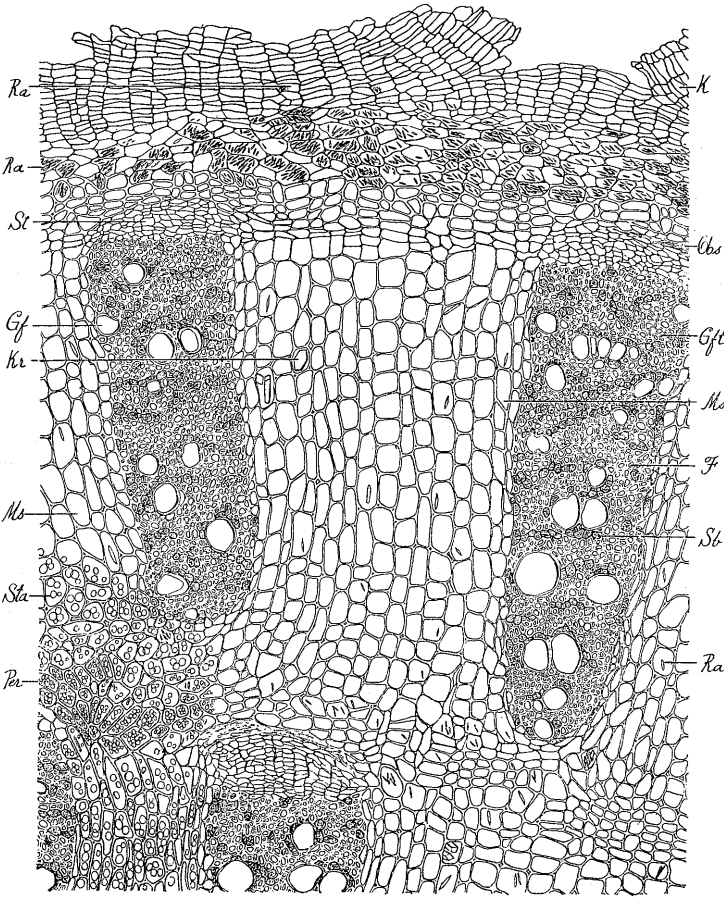
本來烏藥ト云フ漢藥ハ昔時健胃藥トシ或ハ中風ニ用ヒ又霍亂ヲ治スルニ用タモノデアルガ其確實ナル効力ハ本日デハ今一度ヤリ直シテ研究シテ見ネバ分ラナイノデアル、此烏藥ハ普通ハ天台烏藥ト云フモノデ樟科^{すのき}ノ植物 *Lindera strichnifolia* Vahl. ノ根デアル、其根ノ膨脹シテさつ々芋ノ如キヲ括樣ト云ヒ圓壩形^{ボウデ}ノ品ハ棒樣ト稱シ劣等品トシテアル本草綱目啓蒙ニ「享保年中漢種二品渡ル天台烏藥ト衡州烏藥トナリ傳ヘ裁テ今花戸ニ多シ云々」トアリ又日用藥品考(文化七年)ニ「天台烏藥、衡州烏藥ノ

かうしうやく(衡州烏藥)ノ材ノ組織



かうしうやく(Cocculus laurifolius DC.)ノ材ノ横断面

二品ヲ傳栽シモノ
アレドモ藥鋪ニ出
デス 天台烏藥ハ根ノ本
連珠狀ヲナシ末ハ
連ナリ 衡州烏藥ハ總
テ連珠ノ形ヲナサズ
トアリ是ニ由テ之
ヲ觀レバ當時栽培
セル品ハ市中ノ販
賣品トハナラナカ
ッタヤウデアル
かうしうやく即
Cocculus lauri-
folius DC. ハツラ
らふび科 (Meni-
spermaceae) ノあ
をつららふび屬ニ
屬シ本草綱目啓蒙
烏藥ノ條ニ『衡州
ノ烏藥ハ形狀同シ
テ叢生セズシテ高



かうしうやく(衡州烏藥)ノ材ノ組織

かうしうやく (*Cocculus laurifolius* DC.)

根ノ横断面ノ一部ヲ顯微鏡ニテ見タルモノ

ク聳ユ其根堅硬ニシテ
香氣少シ下品ナリ近來
肥後ヨリ和産ヲ出ス薩
州ニテハ イソヤマダ
ケト云フ琉球ニテハ
ハマハシカラキト云葉
ノ形細長三寸許三縱道
アリテ甚桂葉ニ似タリ
深綠色春葉間ニ小花ヲ
開ク天台ノ烏藥ニ似タ
リ云々』トアリ、大正
十四年中藥學博士近藤
平三郎氏ハかうしう
やくノ成分研究ヲ企ダ
テ大ニ藥舖ニ其材料ヲ
求メラレタガ終ニ手ニ
入ラズ最後ニ鹿兒島縣
技師宮川氏ノ盡力ニヨ
リ生植物ヲ切テ其根ヲ

得ラレ僅ニ其目的ヲ達セラレタ又此標本一部ヲ支那ニ送り彼地ニ搜索ヲ試シモ少クモ上海邊ニテハ之ヲ發見シ得ナカツタ、予モ亦此標本ノ片ワレヲ解剖學的ニ研究スル機會ニ接シ大ニ興味ヲ感ジタノデア

ストラスブルガー植物學教科書ニ異常ノ第二次厚徑増育ヲ行フコト即最初ノ形成層ガ或時期ニ其作用ヲ中止シ韌皮部ノ外方ニ更ニ新ニ形成層ヲ生ジ之ヲ何回モ繰返シテ同心性ノ圓ヲ幾ツモ作ルコトノ説明ニ於テ其例トシテまめ科ノ *Mucuna altissima* ノ材ノ橫斷圖ヲ掲ゲテアルケレドモ其圖ハ誠ニ漠然タルモノデ隔靴搔痒ノ感ガアル、一體カ、ル場合ノ説明ニハ自國ノ材料デアル方ガ氣乗リノスルモノデ吾國ノ教師ヤ教科書ノ編輯者ハ此點ニ留意スルコトガ必要デアルト思フコレニハふぢ、さくぼく、やまごばう等ハ相當ニ役立つ材料デアアルガ此かうしうやくハ(寫眞圖參照)髓線ト維管束トハ實ニ判然ト區分セラレ僅ニ徑五「ミリメートル」位ノ細イモノデモ二三回ハ形成層ノ更生ヲヤツテ居ルカラ誠ニ都合ノヨイ材料デアアル強テ缺點ヲ擧グレバ形成層ガ多少明瞭デナイ事デアアル、今少シ詳細ニ説明シテ見ヤウ、前頁ニ掲ゲタ顯微圖ハかうしうやくノ根ノ橫斷デ直徑大約七「ミリメートル」ノモノデアアル、一番外ハ木栓デ十層内外ノ木栓細胞カラ出來テ居テ其膜ハ褐色ヲシテ暗褐色ノ内容物ト小針晶(Cr)ガアル、木栓ノ内側ハ多クハ觸線性ニ長イ細胞デ其細胞膜ハ薄ク澱粉ハ殆ドナクテ小針晶(Cr)ヲ澤山ニ持テ居ル、其内方ニ數層ノ膜ガ厚クテ孔紋(圖ニハ書入レテナイガ)ノ明瞭ナ細胞ガアル之ハ内鞘ニ相當スル所デ其細胞中ニ多クノ澱粉ガアリ又少數ノ小針晶ヲ持テ居ル、篩部(S)ハ一般ニ小サイモノデ更ニ其外部ニ押シツブサレタ篩部組織(OR)ガ屢々存在スル、形成層輪ノ内デ一番外ノ維管束ノ間ノ所丈ケハ稍明デアアルケレド一般ニハ不明瞭ナモノデアアル、導管部(Tr)デハ導管(Cx)ハ比較的小サク徑三十五μ位ノモノデ主ニ有緣孔紋導管デアアル、ソシテ導管ノ近所カラ多クハ觸線ノ方向ニ連テ居テ褐色ノ内容物ガアツテ膜ノ薄イ細胞ガアル此細胞ハ縱斷面デ見ルト縱ニ長クナツテ居ル此他ハ橫斷面デハ多角形ニナツタ厚膜ノ細胞デアツテ縱斷面デ調ベルト小サナ有緣孔紋ヲ持タ纖維狀假導管ト斜ノ裂隙狀ノ孔紋ノアル真正ノ木纖維ト

海濱砂場ノおにしばニ三種アル

デアル、髓線(Ms)ハ略長方形ノ細胞カラ出來テ居テ其細胞膜ガ少シ厚クテ孔紋ガヨク見エルソシテ十八μ位迄ノ澱粉粒ガアリ長サ約十八μ迄ノ小針晶ト三十五μ迄ノ大キナ柱狀結晶又ハ板狀結晶(PH)ガアル、導管部ノ内側ニ接スル所ハ其細胞膜ガ薄イ其次ニハ又内鞘(Per)ガアツテ略七μ位ノ小澱粉粒ト少數ノ小針晶ガアル其内ハ又韌皮デ次ニ材部ガアリ之ヲ何回カ繰リ返シテ居ルソシテ中心ニハ髓ハナイノデアル
枝幹デ根ト違フノハ中央ニ大キナ髓ノアル事其他ニハ一番内側ノ内鞘ノ外ニ接シテ明カナ纖維東ガアル併シ第二回目以下ノ篩部ノ外側ニハ纖維東ハナイ即チ第一回目ノ内鞘ノ外側デ第二回目ノ形成層ガ出來タモノデアル其他ニハ大シテ異ル所ハナイ

○海濱砂場ノおにしばニ三種アル

東京帝國大學理學部植物學教室 理學士 本田 正次



おにしば

(*Zoysia macrostachya* FRANCHET
ET SAVATIER)

おにしば (*Zoysia macrostachya* FRANCHET ET SAVATIER)ハ本州四國九州ノ海岸砂地ニ自生スルしばノ一種大形ノモノデ匍匐莖ハ長ク砂中ニ擴ガリ節々カラ根ヲ下シテ葉ハ普通ノしばヨリ剛ク尖リ莖ニ殆ンド直角ヲナシテ出テ居ル、夏ノ頃莖ノ先端ニ長橢圓形紫褐色ノ總狀花序ヲシタ花穗ヲ出シテ開花スルガ花梗ガ短ク一番上ノ葉鞘ハ總苞ノ様ナ形ヲシテ服ミ花穗ノ下部ヲ包ンデ居ルノデ普通ノしばノ